

	<p>2015年 7月発行 九州手話サークル 連絡協議会</p>
---	--

【掲載内容】

- ◎ 九州手話サークル連絡協議会
会長 中元教博 挨拶
- ◎ 平成 27 年度九手連幹部会報告
- ◎ 平成 27 年度九手連通信員会議報告
- ◎ 平成 27 年度九手連評議員会報告
- ◎ 平成 27 年度九手連研修会報告

27 年度を迎えて

九州手話サークル連絡協議会

会長 中元教博

今年も引き続いて会長を務めることになりました中元です。各県理事と議論を行いながら一步一步進めて行きたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

先日の唐津では、多くの偉人がそうだったように、玄界灘を臨み「この海の向こうには何があるのかな？」と会議の合間に語りかけた理事がおられました。素晴らしい自然環境の中で理事会、幹部研修、評議員総会や九手連研修会等を開催しました。

中でも、評議員総会では例年になく多くの意見・要望が出されるなど久々の充実感ある総会に、議長の大岡采配を感じ見て感謝したところです。

聴覚障害者を取り囲む環境も大きく変化し、手話言語法の制定に向けた意見書可決も全国の市町村において近々 100% になる勢いですが、そのような中、私達手話サークルは何をするのか、サークル会員は各地域の中でどのように聴覚障害者と共に

手話を「獲得・学ぶ・使う・守る」を展開するのか等、具体的に検討・提案をする必要があると考えます。

それは、勿論私達単独で行動できるものでもありませんし、また聴覚障害者と共に歩む社会づくり・町づくりとは何かを考える必要があります。そのためにも常日頃からお話ししているように強い組織力と多くの方々との議論が大切になります。

九州 3 団体と連携をとり、九州各県の皆さんの意見を十分に確認しながら、議論を重ねて行かなければならないと考えています。

皆さまの更なるご理解と御協力をお願いし、就任に当たっての挨拶とします。

よろしく願いいたします。

幹部会議

報告者：長崎県 久松美登子

初めて参加した幹部会。熊本・長崎・佐賀の県手連会長がいらっしゃるグループで、緊張しての参加となりました。各県の活動を聞くことができ、佐賀県の手話言語法への取り組みには興味がありました・・・明日の研修会での話を楽しみに！！ということで、翌日の研修は、楽しみにになりました。

幹部会という敷居が高いイメージがありますが、様々な話を聞くことのできるよい機会となりました。



通信員会議

報告者：熊本県 吉野 綾

初めて通信員会議に参加しました。通信員設置の経緯とねらい、業務内容について説明を受けた後、具体的な取組（今年度の役割分担、九手連 ホームページの活用等）について協議しました。今まで、研修を受けられること、情報を受けとることができることを当たり前の様に感じていましたが、様々な役割のもと、九手連の活動が成り立っていることを改めて気づかされました。

九手連のホームページがあることは知っていましたが、今まで年に一度見るか見ないかでした。活用について議題にあがり、改めて見てみると「はっけん」のバックナンバー 等、様々な情報を得られることがわかりました。地域でも紹介していきたいと思えます。

通信員間では、メーリングリスト等を利用して情報交換、情報共有を図るそうです。各県の担当者との貴重な情報交換の場を得られたことを感謝しつつ、県の代表として役割をしっかりと果たせる様に努めていきたいと思えます。

評議員会

報告者：宮崎県 荒川真任

6月27日（土）佐賀県唐津市の虹の松原ホテルにて、九手連の評議員会が開催され、各県の評議員27名の出席を得ました。

議長には長崎県の小濱規男評議員が選出され、議事の進行をされました。

出席者から、「沖縄県手連設立活動の状況」の説明を求める質問や「九手連の存在が、各県のサークル活性化につながるような取り組みはできないか？」という要望などいくつか出されるなど活発な意見交換が行われ、26年度事業及び決算報告、27年度事業計画及び予算案などの議案は全て承認されました。

また今回は福岡、佐賀、大分、宮崎の理事が交代されました。

私も今年度から宮崎の新理事ということで、緊張して佐賀に入ったのですが、理事の皆さんが本当に優しい方々でホッとしました。

今後、微力ながら九手連の活動と各県の交流を増やせるよう頑張っていきたいと思えます。

研修会

報告者：鹿児島県 濱川千鶴子

午前は「『手話言語法に』について学習する」というテーマの下、全日本ろうあ連盟副理事長の小中栄一氏の講演がありました。

「手話言語法」という言葉を耳にし始めて数年経つというのに、未だにぼんやりしたイメージでしか捉えられていなかった私。上記テーマを「サークルの活動の中での取り組みについて」という観点からの講演で、理解を深めるのに良いお話でした。

講演冒頭に「学生時代は手話を低く見ており、手話の講習会に誘われたが断ったことがある」とご自分の体験を引き合いに説明された内容が講演の要点を言い得ていると思えました。卒業後、手話を学び、手話を身につけたことによってできるようになったことがある。手話の普及＝ろうあ者の社会進出であり、手話＝ろうあ者である、

とのこと。

ろうあ者は社会で何か問題があった時、それをサークルに持ち寄る。サークルというのはアメリカにはないもので、特色あるもの。私たちが担うものは大きいと感じました。

この日はなでしこジャパンがワールドカップで初戦を飾った日。「手話言語法は成立するのか」ではダメ。なでしこのように「絶対に勝つ！」という気持ちが大切、との言葉に気を引き締めることでした。

午後は手話言語条例を九州で初めて制定した嬉野市の職員の方と九州聴覚障害者団体連合会青年部長の鈴木教平氏の話が主でした。

嬉野市はいろいろな議論があったものの、制度を先に制定することに重きを置くという選択をし、今、少しずつ町に変化が見られるということでした。

青年部からは「手話言語法の将来はろう青年が担っていく」との言葉に、共に歩む気持ちを強くしました。

報告者：佐賀県 匿名

権利条約や障害者基本法中で「手話は言語である」と記述されたことにより、新しく道が開け、これからいよいよ手話が言語として認められ、社会生活の中で当たり前に使われていくのを想像すると単純に嬉しく感じました。その一方で、手話に興味を持って学んでも継続できない人も多く、手話を日常的に使える人を増やすのは容易ではないと感じました。

また、シンポジウムで小中副理事長が言われた嬉野市の手話言語法条例の事例など、(条例を)つくる人の気持ちが大切との言葉に共感しました。

福祉の分野だけでなく色々な分野からの理解を得ることも大切。私は、手話初心者で

手話は下手ですが、コミュニケーションを楽しみ、サークルメンバーの一人として、一人でも多くの人に手話を広めていきたいと思っています。まずは、自分のできることを一歩ずつ頑張りたいと思いました。



報告者：佐賀県 山口美由紀

6月28日(日)、第23回九手連研修会が佐賀県唐津市で開催されました。当日は晴天にも恵まれ、会場は虹ノ松原の中にあり、海と空のロケーションを前に160数名の参加がありました。今回のメインテーマは『手話言語法』についての学習ということで、午前、午後共に「手話言語法」や「手話言語条例」に関する講演、並びにシンポジウムが行われました。

午前の部は、全日本ろうあ連盟副理事長の小中栄一氏による講演で、約50年にわたるろうあ運動からの手話の広がりや、手話言語法制定に向けた法整備の必要性、ろう教育への熱い思いが語られました。



午後の部は、九州で初めて「手話言語条

例」を制定した嬉野市の前健康福祉部長徳永賢治氏から、制定までの取り組みや現状および、課題についての話しを聞きました。また、九聴連青年部長の鈴木教平氏からは、ろう青年の視点から考える手話言語法についての話しがありました。

今回、共通していた5つのキーワード「手話を獲得する」「手話で学ぶ」「手話を学ぶ」「手話を守る」「手話を使う」は手話言語法を考える上でとても重要なことであり、また、手話でつながるという事は豊かな生活作りにつながり、それはろう者の為だけではなく、健聴者のためでもあると思えました。

私達、サークル会員が地域でできることは何か、地元のろうあ協会と連携をとりながら考え、一步一步、前に進んで行けたらと思います。「手話言語法」や「手話言語条例」について考える良い機会となりました。



【編集後記】

今日(7月23日)は暦の上では「大暑」。例年なら夏真っ盛り！なのでしょうが、梅雨明けさえもまだ。このはっけんが発行されるころにはスッキリと晴れ渡る空にお目にかかりたいものです。

九州手話サークル連絡協議会

(事務局) 〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和 34-2

森 保夫

私は家庭の都合で手話から数年離れていました。

昨年佐賀で開催された大会のお手伝いをきっかけに再び手話に関わりはじめました。今年度から初の九手連理事まで担当させて頂くことになりましたが、すっかり浦島太郎状態です。加えて自称「恥ずかしがり屋^^;」。こんな調子で理事の重責が務まるのか心配ですが、私なりにがんばります。皆様よろしく願いいたします。

6月に当県唐津で行われた一連の行事。その会場裏の海では楽しそ〜にサーフィンらしきスポーツに興じる人たち。そのあまりにも気持ち良さげな状況に「研修を抜け出して私も遊びたい！」と思ったのは私だけではないかも(^.^)。

そんな状況を尻目に各県からのご報告のとおり、ご参加の皆様は活発な議論や意義深い研修へ熱心に参加され、これまた感心。私にとっては数年のギャップを埋めるべく良い刺激になりました。

現在はまた日常に戻られ、地元でのサークル運営や行事などに忙しくされていると思います。

唐津での2日間をその活動の一助としていただき、益々活躍されることを願っております。

またどこかの会場でお会いいたしましょう。

発行責任者：中元 教博

広報担当者：高倉 尊広 (佐賀)

発行年月日：平成 27 年 7 月 30 日